

## 宋代の科挙（官吏登用試験）制度

（蘇東坡一〇〇選、石川忠久より）

科挙の受験は当初原則として毎年一回であったが、北宋の半ば、十一世紀後半からは三年ごとになった。又、広く人材を求めることから、全ての人に受験と仕官の道が開かれた。

【試験科目】 「進士」「明経」「明法」の三科が主

【受験段階】 次の三種を経て上級に進む

\* 解試：子・卯・午・酉の年の秋に、各地方で行われる第一次試験。

\* 省試：丑・辰・未・戌の年の春に、都の尚書省礼部で行われる

昇進試験。

\* 殿試：省試合格者に対して皇帝自ら策問を行う試験。

更に天子の特別試験（制試）及第によって上級官僚に昇進する。

蘇兄弟は

一〇五六年八月…開封で解試合格（蘇軾二十一歳）

一〇五七年正月…省試合格（蘇軾二十二歳）

一〇五七年三月…殿試合格、兄弟そろって進士及第を果たす

（試験委員長は欧陽修、審査員は梅堯臣）

☆成績発表の直後、母程氏が急逝、眉山に帰り三年の喪に服す。

☆母の喪があけた一〇五九年、蘇父子三人は今度は舟で開封を目指す。そ

の時の詩が「初發嘉州」、「江上看山」である。